

昭和四十二年十一月招集  
第四回市議会臨時全會議錄



館山市議會議第四回臨時會會議錄(一)

昭和四十二年十月招集

十一月二十五日(土曜日)

一、現在議員三十名でその氏名次の通り

一番	吉田勇治郎	二番	石井輝久
三番	嶋田石蔵	四番	伊賀多朗
五番	藤田益治	六番	磯辺博
七番	白熊盛太郎	八番	黒川正
九番	三幣勇	一〇番	西村真次
一一番	菊井敏博	一二番	小柴孝
一三番	山田教宇	一四番	遠山ヨネ子
一五番	石井正	一六番	五十嵐昇
一七番	江田徳太郎	一八番	安西益男
一九番	島野茂樹郎	二〇番	中村省吾

二一番 関 武夫 二二番 小澤 惠太郎

二三番 飯田 義男 二四番 田中 祿郎

二五番 田村 源治郎 二六番 秋山 大三郎

二七番 安次 徳順 二八番 望月 照正

二九番 鈴木 市蔵 三〇番 山口 康

一、議事日程

第一 議案第五十四号 館山市公平委員会委員の選任について

第二 議案第五十五号 館山市教育委員会委員の任命について

第三 議案第五十六号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

第四 議案第五十七号 館山市収入役の選任について

第五 議案第五十八号 館山市議会の議員その非常勤の職員及び公務災害補償に関する条例の制定について

議案第五十九号 館山市公立学校、学校医、学校歯科医及び

学校薬剤師の公務災害補償に関する条例  
の制定について

第六 議案第二十号 非常勤の特別職の報酬及び費用弁償に  
関する条例の一部を改正する条例の制  
定について

第七 議案第二十号 館山市南部簡易水道新設工事請負契  
約の締結について

八 議案第二十号 による出席説明員

市長 本間 譲

助役 小出 武男

収入役代理 角田 巖

秘書課長 小倉 隆男

人事課長 小沢 正治

庶務課長 山口 実

財政課長 長谷川 広治

衛生施設課長 吉田 耕一

教養庶務課長 干場 伊左門

調査課長 高木 哲三

商工観光課長 山田 俊康

福祉事務所長 池田 亮山

一本歳会の事務局長 局長補佐 友不書記 取具

事務局長 高梨 清一

事務局長補佐 太田 博雄

書記 矢藤 恭一

同 斉藤 武男

同 庄司 徹

同 錦織 睦子

取 員 島田 守

出席議員

二十五名

欠席議員

四名

午前十時五分

開議

議長（吉田勇治郎君）本日出席議員数二十四名、

二十より第四回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会より議案審査のため、地方自治法第百三十一条の

規定による出席要求に対し、本間市長、小出助役、小

倉課長、小沢課長、角田収入役代理、山口課長、長谷川

課長、吉田課長、高木課長、山口課長、池田所長、

押本教育長、干場課長以上の者が出席する旨を報

告がありました。

議案を配付いたします。

配付漏れはございませんか。配付漏れなしと認めます。  
監査委員より、九月定例監査、休養施設、監査結果  
が報告されております。その旨お手元に配付し印刷  
書にも御了承願います。

会議録署名員の決定を行ないます。

本臨時会々会議録署名員に五番議員 藤田益治君  
ニ七番議員 安次徳順君 以上両君を指名いたします。  
こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よつて決定い  
たします。

会期を決定を行ないます。

本臨時会々会期につき、議事運営協議会々意見は  
本十一月二十五日から十一月二十七日まで三日間という



ことであります。

おはかりいたします。ニハク御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

よって会期は十一月二十五日から十一月二十七日まで三日間と決定いたします。

暫時休憩いたします。

午前十時八分

休憩

午前十時十五分

再開

議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

ニハク本臨時会う案件につき市長う説明を求めます。

(市長登壇)

市長(本間護君)開会に当りまして一言ごあいさつ申し上げます。  
本日三十三回市議会臨時会を開催しに次第でございますが、議員の皆様方には御多忙のところ御出席をたまりましてまことにありがとうございます。

急拠御審議をわずらわします付議案件はいずれも急施を要するものであります。まず、かねてより地域住民をばいめ本市縣心案、南部簡易水道新設工事について、過般請負入れを行なった結果、請負契約締結の遅延となり、条例で定めるところにより、二ヶが契約締結について、議会が決議を求めようとするものであります。

工事内容につきましては、継続事業第一年度工事として、主体工事及びさく井工事の着工であり、二ヶが完成のあかつきは、給水区域を神余をばいめ竜岡、

中里、大石、大神宮相連、布良に給水人口を四千九百人、給水量を一日千トンを常時給水できる簡易水道が敷設されるわけでございます。

次に条例関係では本年八月に地方公務員災害補償法が制定公布され、三月十一日から適用と相なり、ます関係から同法の規定するところにより、議会、議員その他非常勤の職員の公務災害補償の条例化が必要であり、また合わせて公立学校の学校医等についても、それぞれの条例を制定して、こうとするものであります。また、二通りの制度が確立に伴って、公務員災害補償に対する認定委員会、または審査委員会を設置するので、二通り委員の報酬についても、合わせて条例の一部改正をしようというものでございます。

次に人事関係といつて、本日もちろめて、任期

が満了となる公平委員二名、選任同様に教育委員  
一名、任命、固定資産評価審査委員一名、選任  
その他目下欠員中の本市収入役、選任がありますか。  
こゝからは、それぞれ法を定めるところにより、地方行政の円滑  
な運営及び円滑な執行をはかるために選任、任命して  
いく必要がありますので、議会より同意を得たく、よろしく  
お願い申し上げる次第でございます。以上、簡単に申し  
上げました。詳細につきましては、関係課長をして説明  
いただきます。慎重な御審議をたまわりまして、御  
決議をいただきますよう、切にお願いいたします。私、ごあい  
さついたします。

議長（吉田勇太郎君）日程第一議案第五十四号を議題  
といたします。

（書記朗読）

議案第千四号 館山市公平委員会委員の選任について

議長(吉田勇治郎君) 本案に対する説明を求めます。

(市長登壇)

市長(本間義君) 公平委員は御承知のうちに当市には三名おりますが、二名の方が本日をもって任期満了となるわけでございまして従いましてその委員としまして新しく三平宏君、並びに高橋理紀君を御推薦申し上げたいと存するわけでございますが、三平宏君につきましては皆さますでに御承知のとおり、この間までは監査委員をやっておりましたが、現在は館山市観光協会会長館山市商工会議所の副会頭等々要職についておる方でございます。また、高橋理紀さんは、千葉師範の専攻科を出られまして、学校長を歴任されまして最後に館山市中の校長さんをおやりになつて、現在は連絡員をおやりになつておられます。

すし、御兩人とも五派の方であるわけでございまして、ぜひとも御了承をいただきたいと思います、思うわけでございます。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。

本案を原案通り）同意することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り）同意することに決定いたします。

日程第二、議案第五十五号と議題といたします。

（書記朗読）

議案第五十五号 館山市教育委員会委員の任命について

（市長登壇）

市長（本間譲君）教育委員が一名が本日を持ちまして任期満了と相なるわけでございますが、前委員の飯田利三郎君をもつとも適任者と思ひ、御推薦申し

上げるわけでございますが、飯田利三郎さんは皆さん、御承知のように今まで教育委員をやっておりました。また、館山市の建設審議会も委員もやっております。慶応義塾大学を出まゝて現在千葉相互の取締役館山支店長という方でございます。

どうぞよろしく御了承願います。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本案を原案通り同意するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって原案通り同意することに決定いたしました。

日程第三、議案第五十六号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第五十六号 館山市固定資産評価審査委員会

委員の選任について

(市長登壇)

・市長(本間譲君) 館山市の固定資産評価委員 前委員  
の安西繁治さんが休みの都合上 辞任を申し出たわけで  
ございまして、その後任に本日 飯田良平氏をお願いい  
たいと思うわけでございしますが、飯田氏は旧村時代に  
豊房の村会議員もやりまして、また連絡委員等  
もやっておられます。商売は石材商でございしますが、  
非常に評価なんかにつきましては、いい頭を持っておら  
いまして、商売は石材商でございしますが、非常に評価  
なんかにつきましては、いい頭を持っておられます。この方  
がもつとも適任者だと思ひまして、皆さん方御了承を  
いただきたいと思います。

・議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。 本案を原案通



リ同意することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本案は原案通り同意することに決定いたします。

日程第四 議案第五十七号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十七号 館山市収入役の選任について

議長(吉田勇治郎君) 本案に関する説明を求めます。

(市長登壇)

市長(本間譲君) 収入役は現在欠員中でございまして、たがひけり市役所三役でございまして、いつまで欠員にするわけに参りませんので、この際市役所課長の中から選任するという事でいろいろ検討を進めて参ったわけでございまして、その結果きわめて重要な職務でございまして、調査課長

高木哲三君を選任いたしまして皆さま方御了解を  
得たいと思うわけでございますが、高木君は皆さんすでに  
御承知のように熊野におきましては相当資産も持って  
おりますし、勤勉家でございまして、果ては安房中学校を  
卒業されてから熊野の村長もやられていますし、また市に入り  
ましてから課長を歴任いたしまして現在調査課長とい  
うことでございますが、収入役としていとも適任と考え  
まして御推薦申し上げまして皆さま方御了解を  
得たいと思つうわけでございます。

議長(若田勇治郎君)おはかりいたします。本案を原案通  
り同意することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(若田勇治郎君)異議なしと認めます。よつて本案は  
原案通り同意することに決まりました。

日程第五、議案第五十八号、五十九号を一括上程いたします。

(書記朗読)

議案第五十八号 館山市議会議員その他非常勤の

職員が公務災害補償に関する条例の  
制定について

議案第五十九号

館山市公立学校の学校医、学校歯科医  
及び学校薬剤師が公務災害補償に関  
する条例の制定について

人事課長(小沢正治君) 議案第五十八号に関して御説明  
申し上げます。

地方公務員の公務災害補償に関しましては従前労働  
基準法、或いは労働者災害補償保険法、消防団  
員等、公務災害補償等共有基金法、こういう法律  
で行なわれておったわけでございますが、最近に至りまして

公務災害の件数或いは災害補償の金額等の上昇  
 について一般企業或いは国家公務員の災害補償に関  
 しまする制度が非常に改善されて参りまして地方公務  
 員の災害補償につきましてもいふ様な法律で行なうので  
 なくて独立の法令によつて統一し、その目的確、迅速に  
 災害補償を実施すべきであるという自治体<sup>省</sup>の考え方  
 から数年来地方公務員の災害補償に関する法律  
 の制定について検討をして参つたわけでございますが、ま  
 うよく本年の八月一日に地方公務員災害補償法という  
 独立の法律が公布されたわけであります。そこで十一月二  
 十日から適用するということになつたわけでございますけ  
 れども一般の常勤の職員に關しましては、この法律  
 で実施されることになるわけでございますけれども、こゝに  
 ついて地方公共団体に服務するところの非常勤

職員に対しては、各地方公共団体の条例をもって対処  
なさい。それでその条例の内容等、ルールについては、一般取  
引標準として均衡を考へながら条例で定めなさいという  
ことで、法律の六十九条或いは七十条でその関係が義務  
づけをうたわへたわけでございますが、そういう関係で  
ございましてけれども、一応各都道府県或いは市町村ご  
とに条例をまかせたりではむしろてんでばらばらになる  
ではないかという懸念から、自治省側で一応ただいまお  
示しいたまいたような条例の準則というものを全国統  
一的に統一したわけでございます。この条例によりまして  
十二月一日から全国一斉、こういう形が取られることにな  
るというわけでございます。そういういきさつから逐条的に  
申し上げますと、第一条が目的でございまして、法律に基  
きまして、市議会議員をほめとする非常勤勤の

特別職に對しまする公務上の災害に對する補償に關する制度をこゝ条例で定めるといふわけでございます。第二系でこゝ条例でいふ職員とはどういふものかといふこととまつておるわけでございます。いひゆる非常勤の特別職と理解していただければ、議會の議員及び各種委員會の非常勤の委員、非常勤の監査委員、

それから自治法の上で定められております審査会、審議會、調査会等いろいろ市の条例で委員制度が設置されておりますが、そういう構成員、それから非常勤の調査員、及び嘱託医その他、非常勤の職員でこゝカッコ

書の中へ「施行令第一条に規定する職員を除く」と申しますのは、職名は非常勤であつても用務が常勤と同じような形で服務が要求されておるものでございます。

当市の場合は実例はないわけでございますが、そういうもので

あつて、次の一号から四号まで、それぞれ適用する災害補償の  
制度があるわけでございますが、一号から四号までにかかげ  
るそれぞれの条例や法を適用を受けない者というわけでござ  
います。それでは、それぞれ特別職に対しまする災害  
補償の実施はどういうふうにするかというものが第三条に  
ございます。

「次の各号にかかげる者」に区分して、当該各号にかかげ  
る機関は、この条例で定める補償の実施の責めを負  
うのだというのでございます。

考え方としては、それぞれの任命権者がこれを「行なう」とい  
うことになるわけでございますが、一応議会には、議員の任命  
権者というのではないわけでございます。そういう関係か  
ら、一応議長にその責任を持ってもらうというわけでござ  
います。

二号はそれぞの執行機関たる委員会を委員とわ、その他非常勤の監査委員というものがございすけれども、三号のその他職員という関係で分けてございすのは、これは法律に基きまして執行機関と付属機関の關係があるわけでございす。

自治法より百八十条より五で規定さいますところ、いわゆる執行機関、教育委員会或いは選挙管理委員会、公平委員会、農業委員会、固定資産評価審査委員会というふうな關係が自治法で執行機関として市に設置しなければいけないという規定があるわけでございす。そういう關係、委員が二号の關係の方でございすか、この実施機関は市長その他職員につきまゝ、ではそれぞの任命権者というわけでございまして、この実施機関は職員について公務に基くと認定。



さる災害が発生した場合には、その災害が公務上の  
ものであるかどうかを認定するのだというわけでございます  
すけれども、その認定に際しては、公務災害補償認定  
委員会というものを設置して、その委員会が意見を聞  
かなければならぬというのが、二項、三項でございます。  
そうしてすみやかに補償を受けるべきものと通知する  
のだというわけでございます。しかうば、その認定委員会と  
いうのは、どういうふうかと申しますと、これが第四條でござい  
まして、二十五人をもって組織する。その委員は、学識経  
験者<sup>を</sup>有する者の中から、市長が委嘱し、  
任期は三年で再選されることもできる。そうして認定委員  
会に委員長を置いて、その委員長は会議を総理する  
のだ。そうしてこの委員会が運営に関し、まして、なお細  
かい点は規則で定めるといふのが第四條でございます。

ここで二、補償を実施するに際しまして、何を基礎に  
 するかと申します。第五條でございしますが、ここでいう  
 補償額と申しますのは、常識的にいって一日のいわゆる  
 報酬日額というふうな理解をしていただければよろしい。  
 わけでございします。その日額をきめ方でございますが、  
 議会の議員につきましては、議長が市長と協議して定める  
 額、それから執行機関等で委員会が非常勤の委員  
 及び非常勤の監査委員につきましては、市長が定める  
 額、それから報酬が日額で定められている特別職の  
 職員につきましては、その「実施機関が市長と協議  
 して定める額」報酬が日額以外の方法で定められて  
 いる職員、または報酬がない職員、こういう方々につま  
 ましては、前号にかかげるものと、均等を考慮して  
 実施機関が市長と協議して定める額、こういうわけ

でございますが、条文としてなかなかマヤマヤしい表現を取っておりますが、簡単に考えますと、議会の議員の場合、月額報酬でございますので、大体月額が三千カリーというものが原則的な形になるわけでございますが、一応、そういう形で月額というものをあらかじめ定めておきまして、災害が発生した場合、日額的な額が、補償基礎額と算定する基礎になるわけでございます。

それを基礎といたしまして、補償をどうように実施していくかというものが、第六条以下細かくかかげてございますが、これは常勤の一般職と全く同様でございます。

補償の種類といたしましては、療養休業、障害遺族葬祭という五種類の補償でございますが、その中で障害と遺族の補償に関しましては、障害については、障害の程度によりまして、年金と一時金にか

ける。遺族補償につきまゝでは原則として年金で場合によつては、一時金という形を取ることとてございませう。その療養補償、休業補償、障害補償という関係につきまゝでは七条、八条、九条で規定してございませうけれども大体、これは他の法律等との均衡を考えまゝで大体法律と同じ額でございませう。

療養の場合には公務上り負傷、或いは疾病に對しまして療養補償として必要な療養を行ないまたは必要な療養費用を支払する。必要な療養を行なうということとはあらかじめ市で医療機関の指定を行ないましてそこで必要な療養を受けさせるというが、療養を行ないでございまして、必要な療養の費用を支払する、ということとはそれ以外の機関で治療等をする場合、その費用を市が払うということとてございませう。

休業補償につきましても、そういふわけがなかり、病気ににかつたり、そのが公務上のものであるという認定を受けますと、それによつて休業する場合、その休業補償として給与を支給を受けずに収入を受けることができない期間につきましても補償基礎額より百分の六十に相当する金額を支給すると、  
うわけでございます。

障害補償と申しますのは、そういったわけが、病気が回復したうちに簡単に申しますと、不具廃疾と申しますか、そういうものがあとに残るというような場合に別表にございます。それと、それより等級低くなります。年金で軽いものは一時金で九条にうたつてございますように支給していくということでございます。

十条は、そういう休業補償、障害補償を行なう場合に職員側に故意、あるいは犯罪行為もしくは、重大な過失等

のあった場合に支給すべき額が三割を限度として減額支給してさうつかえないという規定でございます。

二項が療養期間中に工合が悪いことがあった場合には、そう一回に於て十日間休養補償を行なわなくてもいいという規定でございます。

遺族補償につきましては十一條、十二條でございすけれども、原則が年金を支給を受けることのできる遺族、これは原則的に申しますと、まず配偶者、それから子、父母、孫、祖父母及び兄弟姉妹で、取扱い死亡の際にその職員の収入によって生計を維持していたものでなければならぬというわけでございます。ただ一書と一書として妻以外もうちにあつては職員の死亡当時それぞれ一号から三号までにかかげまゝのもので五十五才以上十八才未満という年齢制限があるわけでございます。

四号はこゝろ年令制限にひつかからない夫、子、父母、兄弟姉妹について別表の七級以上の障害があつて廃疾の狀態にまは、輕易な勞務以外の勞務に服することのできない程度に心身の廢疾狀態があつた場合には遺族補償年金の受給資格があるというわけでございます。

第二項といひまして年金を受けるとき遺族の順位は配偶者、子、父母、祖父母、兄弟姉妹の順序で考える。

ただ父母については実父母より養父母を優先するといふのでございます。それでは年金の額は一年についてどうするに計算するかというと補償基礎額に三百六十五日を乗じて得た額を二割五分、これが基礎条件でございます。そしてそのあと遺族の数に応じて百分の五ずつを加算するといふわけでございますので、最低が年額百九十九、三十になるわけでございます。

遺族の數で百分の五を加算いたしますけれどもその率が百分の二十五を越えた場合には百分の二十五で打ち切りになりますというわけでございますので最高が年額が百分の五十になるといふことでございます。

第十三条が遺族の補償年金を受けける権利の消滅関係でございます。　　どういふ場合にその権利が消滅するかということでございますが、それが一号から六号までかかづておりますが、これは一応思給法以下、こういう災害補償関係のものと同様の規定でございます。

年金を受けけることのできる遺族がこれらの各号の一に該当するに至つたときは当然失権しますというが第二項でございます。　　それでは一時金はどういふなとき支給するかというが第十四条でございます。　　年金を受けける権利がある遺族がいない場合、それから



年金を死亡当時受けるべき遺族があつたけれども受けて  
おつた途中で亡くなつたとか、そういうことが考えらるわけで  
ございますが、その場合に年金を受ける遺族がない場合に  
こゝを支給する。一時金を受ける場合でも遺族う  
範囲を一定第二項として設定してございます。十二条で  
年金受給権はない、こゝらの遺遺に対して一時金を支  
給するというわけでございます。

それから葬祭費につきまゝとは、十五条で補償基礎  
額、二十倍に相当する金額を葬祭を行なうものに  
対して支給するというわけでございます。

十一条が、こゝは五種類、補償を行なうわけでございま  
すけれども、こゝは補償に關しまして、いろいろ必要な事項  
があるわけでございますが、こゝは法律の第三章の規定  
の例によるということでございます。こゝは法律の方で

条例で定めた非常勤の特別職に関する関係につきましても一応これを準用するという規定があるわけでございます。その他に福祉施設として実施機関は、その職員が福祉に関し一号から五号にかかっているものと符合するように努力することを義務づけております。これらの関係は一応全国組織になりますので、全国的な組織の中でこのような一般職に対するいろいろな施設がこれからできてくると考えられます。そういうものの委託によって行なわれる方法になるだろうと考えられます。こうすることで補償の実施をいたしますけれども、これに對しましてこの災害の認定の仕方とか、療養の方法とか、或いは補償金額の決定、その他不服があるものが出てくるかもしれない。そういうような関係で、その申し立てが行なわれる機関、それを受けて審査を

要する機関、それと十八条できめてございますが、市に審査会を置きまして三人の委員で組織して、こつらう不服の審査を行なうというわけでございます。

二十条は、実施機関、または審査会は補償の実施、または審査に必要なときには、補償を受け、或いは受けようとするもの、その他関係人に対して報告を求めたり、文書、その他物件を提出させたり、或いは出頭を命じたり、さらに医師の診断などを受けさせることができる。こういうことを行なうについて、出頭したもの、別に規則で定めることによつて、費用弁償を受けることができるというものが、二十条でございます。

三十一條は、受給権者が正当な理由なくして二十条できめてあります報告をしない、文書、物件を提出せぬ等もない、或いは医師の診断をこぼし、たりした場合に補償の支

おいても一時き止めても構わつかないというが第三十條でござります。

議長（吉田勇治郎君）まだ説明が残っておりますが午前  
の会議はこゝにて休憩といたします。

午後 零時

休憩

午後一時二分

再開

議長（吉田勇治郎君）午後より出席議員数 二十三名

休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続いて説明を求めます。

人事課長（小沢正治君）引き続き御説明申し上げます。

第三十條が条例施行に關し、必要事項はここに  
規則で定めるといふこと、二十四條が三十條第一項、規定

による報告をしない場合、さういふ場合には、ここに於て、  
たことを行なわなかつた場合に、一百万以下、の物件に処す  
るという罰則がございます。

附則といひまして、この条例が十二月一日から施行すると  
いうことと、二条の経過措置といひましては、十二月一日ま  
で以降、それまで、前との関係につきましては、一応従前  
のとおりだということ。第三条は遺族補償の打ち切り  
に關します。暫定措置といひまして、年金を受けける  
權利を有するものが五年以内に年金を受けける前に  
先払いを申し出た場合には、一応、その四百倍を先払い  
しようというところでございます。

先払いをした場合に、年利五分の計算で年金を支給さ  
す。この場合、割合も考えて、その間、年金は支給しな  
いということ。それから、第四条は補償一時金といひましては、

十四条の原則ではありますけれども、当分の間、一時金  
 四百日分というものを十四条の第二項の一号、二号、四号  
 のものとつては四百日分、三号につきましては、原則の四百  
 日分だけよりも、二倍のものが、不具廃疾の場合に七  
 百日分を支給しようという十四条の規定でございます。  
 第五条が年金を受け取るものが、ほかの法律に基いて年  
 金を支給を受ける場合には、二分の一とか、三分の一とかに  
 相当する額を調整として支給するというところでございます。  
 別表が障害補償の年金と一時金に分けまゝなもので、い  
 う関係でござります。二倍の等級の内容といつても  
 一では、法律にござります。それより規定で定められて  
 おる等級と同じ等級であるということでございます。

概要の説明でおわかりにくかつたと思いますが、あと具  
 体的に御質問を受けましてさらに申し上げたいと思つて

・教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君）議案第五十九号について  
御説明申し上げます。

昭和三十三年に公立学校、学校医、学校歯科医及び学校  
薬剤師の公務災害補償に関する法律が施行されました。  
地方公共団体は、その設置する学校、非常勤の学校医  
等、公務上の災害に対して、補償を行なわなければなら  
ないということになりました。そこで、市町村立の小  
学校、中学校、学校医等に関するものは、県の条例で定める  
ということになりまして、千葉県では、昭和三十四年に千葉  
県公立学校、学校医、学校歯科医、及び学校薬剤師  
の公務災害に関する条例というものが制定されました。県  
立学校並びに市町村立の小学校、中学校、学校医等  
の公務上の災害に対しては、県で補償をするということになり  
まして、ところが、県の条例の対象外であります。館

山市より幼稚園については館山市独自の条例で補償しなければならぬというので、この条例の制定をお願いする次第でございます。この条例は、果ては条例に準じて起案したものでございます。よろしくお願いします。

議長（吉田勇治郎君）本案に対する質疑を行ないます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。議案第五十八号五十九号一括原案通り可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決確定されました。

日程第六 議案第六十号を上程いたします。

（書記朗読）



議案第六十号

非常勤の特別取組報酬及び費用弁償に關

する条例の一部を改正する条例の制定に關

人事課長（小沢正治君）議案第六十号につきまゝ総括的に

御説明申し上げます。

今回の改正關係は家庭相談員に月額「一万五千円」を四月  
に上りまゝ「一万六千五百円」に改めようとするものと、それ  
から日額報酬表に四つに既成の特別職關係がございま  
すが、この日額報酬の設定がなされていなかったこととさらに先  
ほど議決をいただきました公務災害補償の制度關係で認  
定委員会と審査委員会が設置されますので、日額報酬  
を定める必要がこの条例の改正案をお願いする次第でござ  
います。

家庭相談員につきまゝは、一応現在この条例で一万五千円  
となつてゐるわけですが、これは四かゝ三が果實負担

でございまして、市といつてしまつては四かゝう負担でござい  
ます。そういう關係で一応県の方々指示に従ひまゐつて支  
給しなければならぬという形になつておりますが、これは四半  
年度は年度当初にさか上つて一萬六千五百円としてその四か  
う三を県が助成するということでございます。そのよう  
に改正したいということでございます。

それから、日額表關係につきまゝでは現在日額表が非常  
勤の特別職關係はすべて七百万が基準額になつて  
おりますので、そのように設定したいというわけござ  
います。

議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。本案を討論  
省原案通り可決することに御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よつて本案は、

原案通り可決確定さいます。

日程第七、議案第六十一号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第六十一号 館山市南部簡易水道新設工事請

負契約締結について

・衛生施設課長(吉田耕一君) 議案第六十一号につきまして御説明  
申し上げたいと存じます。

今回御決議をいただきます。南部簡易水道の請負契約  
でございますが、四十二年の一月十七日にこの事業の実施決  
議をいただいておりますのでございますが、その後果認可が  
四十二年七月二十二日千葉県指令一八六二号で認可に  
相なっております。その後におきまして、実施設計等が  
完了を見ましますので、別表に参考にお示ししております  
ような区域、給水人口、一日の給水量というような計

画に基きまして今回これを入札にふりたわけでございます。  
す。入れの対象でございますが、新設工事につきましては  
これは一応私も指名願ひが出まゝに三十九社うち上  
社さらに五社を選定いたしまして、その五社にすりまして  
競争入札をいたしたわけでございますが、ここにございま  
す。東京の銀座東五丁目エタニート建設株式会社  
が契約金額一億一千五百万円で落札いたしましたので、  
ここに契約いたした。このような考えのわけでございます。  
なお、本体工事と合わせまして井戸の入れを行なつたわけで  
ございますが、井戸につきましては、五社を選定いたしまして  
日本地下開発株式会社が五百二十九万円で落札を  
見たわけでございます。

この井戸の五百二十九万円でございましては、二つの井戸でござ  
います。

ニラー水契約によりましてよりなりここにございます。工期に  
よりまして契約を締結いたさない。このように考えるわけ  
でございます。

なおここにございますように神倉にせき堤を作りまして淨  
水場第二取水井戸と第一取水井戸と二つ作りまして、  
一部加圧ポンプが必要な地域もございますので、ニカ所  
に加圧ポンプを付けて一カ所に淨水槽を作つてこの区域  
内へ給水したい。このように考えて契約を定め本  
契約をいたないと考える次第でございます。よろしく御  
審議のほどをお願いいたします。

○五番(石井正君)一点伺います。当時我々が承認  
しきいた時点と現在入れにかかると時点におきまして、ま  
いろいろ聞くとここにようになりますと非常な差が出た  
点が出てきておる。

例えは貯水量の問題、或いは給水範囲の問題、給水範囲につきましても、当時は神戸を抜けて、将来西岬につなぐという配管について、一応お示しがあったのでござい  
ますが、現在、時点においては、非常に規模が小さくな  
ってゐるよう、考えるわけですが、そういう、当時と異な  
った点について、御説明を願いたい。以上。

・衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。当初、考  
え方と今回の実施の段階で、相当、食い違ひがあるという  
ような御質問でございしますが、確かに広域的な簡易水  
道として、私も計画を進めておたわけでございします。  
一か一ながら、いろいろ水源の關係等が基本にかりま  
す。關係等がございまして、水源調査の結果、予定い  
た一か一地域から、今回計画をいたした水量以上に源  
水を求めるということが、調査結果からいたしまして不可

能くなるやだというところ大きな問題点があるわけでございます。  
まず、従いましてその後簡易水道としてうなむ突入  
に調査等もいたしまして、実施設計の段階に至ったわけ  
でございます。当初私も、こゝ以外に西岬地域へ  
同時給水というふうな考え方で広域簡易水道という  
考えを打ち出さなうてございますが、水源がそれだけの取水  
ができて得なかつたというものが大きな基因となりまして、ここ  
にございます地域簡易水道として計画を進めて参ら  
れたというのが規模の縮小の原因でございます。

なお、カー、将来水源の確保ができて得れば、配管を延  
長してあげばでき得るというふうな考え方で設計がなされ  
ておりまして、大石まで配管につきましてはこゝ区域だけで  
とすれば必要がない。西岬地域の給水も今後可能な配  
管が大石の地先までという計画で進んでゐるわけござ

います。大体以上の規模の縮小の原因の概況でござい  
ます。

。二二番（小沢憲太郎君）本議案につきまして二三、御質問に  
と思ひます。

前もっていろいろこれについてのお話でございまして、本日これ  
を見ますと、戸数千百戸に満たない、非常に多額の経費を  
を要するように見受けられますが、こゝろ受益者の一戸当  
りの負担はどの位の負担があるか。

次に今まで一原処理場、或いはどんない焼却炉、或いは三  
市町村の水道組合の水道工事というふうな大きな工事を  
を行ないます。際に計画とそこでまきたとてでき上ったあかつき  
においていろいろ難点が出てきておるやうに記憶して  
あります。そういう点を考えまして、或いはこれは取りこし  
差別に過ぎないかもしれないが、今度の水道の水源池、



ダム並に井戸についてどのような基礎調査を行なうて、これだけ、施設をして、所期の目的が達せらるるだけの水量が得らるるかどうか、こういう点について見通しといえますか、これについてくわしく説明を願いたいと思うものであります、以上、

衛生施設課長(吉田耕一君)に答へ申し上げます、

第一問の受益者、一世帯当りの負担でございますが、私も一応前にもお話ししたかと思ひますが、一世帯、本工事につきまゝでは一万五千円、いわゆる給水装置の工事を除く、本工事に対して一万五千円、というふうに考えております、なお流末の給水装置工事でございますが、大体八千円程度を一千当り、それ以上は考えていないというふうに考えております、

次の第二点でございますが、水源の見通しでございますが、

このつきまゝで調査でございますけれども、いわゆる電探  
 調査、ボーリング調査等を実施いたしまして、その結果に  
 よりまして、深井戸につきまゝでは、三百四、五十トン、取水が  
 できなというふうなことからみまします。または、せき止めます  
 ダムにつきまゝでは、大体、取水面積等からいたしまして  
 過去一年にわたって、流量調査にすぎます。ところが、大体  
 七百五十トンから八百トンは、流れておるといふ調査結果に  
 基きまして、それをそのまま取り上げるといふことも、できない  
 ので、まず、河川をせき止めた表面水につきまゝで、百百トン  
 を取水し、井戸一本、三百四、五十トンのものを、二百五十  
 トンというふうに見たわけでございます。井戸が二本で五百  
 トン、それから、リをせき止めたものを、五百トンと見まゝで  
 一日の取水量、一千トンを確保でき得るというふうな調査  
 結果に基きまして、この計画を確めて、きかというところでござい

ます。従いまして、水源の見通しとしては、確実性があると  
いうふうに私も考えておりますし、なおそういう調査専門  
家等が調査結果からお話を承わりまして、私も信じて現  
在まで進んでおるといふわけでございます。

・三番(小沢恵太郎君) 大体わかりました。井戸につきましても、  
五百二十万月という契約金額ですが、二本うことと思いま  
すが、何ミリの井戸をおおよそ深さはどう位を予定しておら  
るか、お伺いしておきたいと思ひます。

・衛生施設課長(吉田耕一君) お答え申し上げます。井戸を掘る  
口径でございしますが、三百五十ミリを二本、深度八十メートル  
ということでございます。

・議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を討論省  
略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田房治郎君)異論なしと認めます。よって本案は原

案通り可決確定さしませ。

おはかりいたします。以上によりまして本臨時会に付議

議さしませる案件はすべて議了さしませた。よって会議規

則第七条の規定により本日をもって開会いたしますことに

御異議ありませんか。

(「異議なしと呼ぶ者あり」)

議長(吉田房治郎君)異議なしと認めます。よって本臨時会

は本日をもって開会することに決定いたしました。

午後一時三十三分 開会

本日、会議に付、大事件

一、議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

鳩田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

白熊 盛太郎

黒川 正

三幣 勇

西村 真次

菊井 敏博

小柴 孝

山田 教字

石井 正

五十嵐 昇

江田 徳太郎

安西 益男

島野 茂樹郎

中村 省吾

小澤 恵太郎

飯田 義男

田中 祿郎

田村 源治郎

秋山 大三郎

安沢 徳順

望月 照正

鈴木 市蔵

欠席議員

磯 田

博

遠山 三子

関

武夫

山口

康

昭和四十二年十一月二十五日

右会議の次第を録し、ここに署名す。

館山市議会議長 吉田 勇吉

同 署名議員 坂田 盛治

同 安澤 徳順

